

	重点項目		取組実績
	項目名	対 策	
1	死因究明及び身元確認に係る業務に従事する警察等の職員、医師、歯科医師等の人材の育成及び資質の向上について	各機関において、死因究明等に係る業務(検視、検案、解剖、歯牙鑑定、死亡時画像診断等)に従事する人材の育成及び資質向上を目的とした研修会等の取組みを継続的に行う。また、他機関が開催する研修会、複数の機関が合同で開催する研修会等に積極的に参加する。	【県警・検察庁】 ・捜査員を対象に巡回教養、検視専科、検視講習を実施した。 ・中四国管区検視官会議に出席して、事例を発表し情報を共有した。 ・全国検視官会議に出席して、全国の事例を把握して知識向上を図った。 【海上保安部】 第五管区海上保安本部においては、毎年度各1名ずつを兵庫県医科大学、和歌山医科大学の法医学講座に研究生として1年間在籍させることにより、検視に従事する者の育成及び資質の向上に努めている。 このほか、高知県警察本部に受入れ頂いている検視実務専科等に教養参加者を派遣した上で、育成、資質の向上を図っている。 【医師会】 令和6年度高知県医師会検案業務研修会は「検案医の育成」と題して高知大学医学部法医学講座教授古宮淳一先生が令和6年11月28日(木)あんしんセンターで講演を行った。高知市医師会第5回包括ケア医部会において「高知県の孤独死の現状」と題して令和6年11月8日(木)あんしんセンターで勉強会を行った。令和7年3月1日に検案医育成に関する研修会で行う予定である。 【歯科医師会】 歯科医師会としては、令和6年7月25日、高知県警察学校に講師2名が赴き、口腔内所見による身元確認作業の講習並びに実習を行った。また、12月5日に高知県警と協議会を開催し、報告事項の確認並びに令和7年度の事業計画について協議を行った。その他、11月28日に開催された医師会の研修会に参加した。 【放射線技師会】 第3回Ai研究会(12月8日)開催した。一般演題6台、特別講演、講師: Ai技術学会理事長(阿部一之先生) 検案業務研修会(医師会開催)に参加した。 【法医学教室】 ・警察官、海上保安官および高知地方検察庁職員等に対し法医解剖に関する教育講演を行った。 ・県内の初期臨床研修医(1年目)に対して死亡診断書(死体検案書)の書き方等について教育講演を行った。 ・高知県医師会検案業務研修会にて教育講演を行った。 ・死体検案研修会(上級)における解剖見学実習において医師1名の研修を実施した。 【県】 医師養成貸付金制度において、法医学領域に従事する医師を償還免除の対象とすることで、法医の確保を図っている。
2	警察等における死因究明等の実施体制の充実について	死因が犯罪行為に起因するものであるかどうかという判断のみならず、自殺や労災事故の予防、感染症の早期発見等、公衆衛生の向上を念頭にした対応に万全を尽くすため、異状死体の取扱業務に従事する警察官や海上保安官に対する検視技能向上を図るとともに、薬毒物定性検査を迅速かつ的確に実施できる科学捜査研究所の体制整備を充実させる。また、人員体制及び科学捜査機能を充実するための取組みを継続的に行う。	【県警・検察庁】 ・検視事案を認知した際、画像伝送システムを活用して、早期に現場の状況を把握し、検視官臨場の必要性の判断、捜査員への指導を行っている。 ・薬物関係(アイベックススクリーン)の検査実施数は803体(R6.11月末時点・死体取扱総数の70%) ・積極的な解剖を実施し、解剖数は85体(R6.11月末時点・7.4%) 【海上保安部】 当部では、検視に必要な専門的知識、技能を習得した検視官の指名を受けた者がおり、異状死体を取扱う際は、必ず検視官が臨場している。 薬物の検査実施数については、当部(海上保安署を含む)で取扱う死体においてはアイベックススクリーンを使用している。
3	死体の検案及び解剖の実施体制の充実等について	①死体検案に従事する医師の継続的な確保に努める。(医師会、県警、海上保安部) ②高知大学医学部法医学教室は、県内で唯一の法医解剖の実施機関であり、法医学教育・研究の拠点でもある。同機関の機能充実と長期的な人材確保に努める。(法医学教室) ③在宅での看取りに円滑に対処するには、適切な看取りの仕組み作りが必要になるため、関係機関との連携・協力のあり方等について検討する。(医師会、県警、県)	【県警・検察庁】 ・警察協力医会会員の現在の会員数は40名 ・警察協力医会による検案は479体(R6.11月末時点・41.8%) ・警察協力医会員以外の医療機関にも理解を得て、遺体の持ち込み検案やCT撮影などを行っている。 【海上保安部】 ①今年度において、検案に従事する医師の確保の実績はなし。 【医師会】 令和6年度高知県医師会検案業務研修会は「検案医の育成」と題して高知大学医学部法医学講座教授古宮淳一先生が令和6年11月28日(木)あんしんセンターで講演を行った。高知市医師会第5回包括ケア医部会において「高知県の孤独死の現状」と題して令和6年11月8日(木)あんしんセンターで勉強会を行った。令和7年3月1日に検案医育成に関する研修会で行う予定である。 【法医学教室】 ・常勤職員3名(うち医師2名)で検案および解剖に対応している。 ・学外の医師2名が大学院生として在籍している。 【県】 (1) 人生の最終段階における医療・ケア検討会議の開催(2回) (2) 人材育成 ・各種団体、医療機関が行う講座に対して講師を派遣(ACP講座3回) ・市町村職員、あったかふれあいセンター職員等を対象に情報交換会を開催(1回) (3) 一般住民を対象とした講座 ・県政出前講座(高知市2回、四万十町2回、香美市1回、土佐清水市1回、田野町1回、四万十市1回 計8回) ・各福祉保健所圏域での住民向け講座(大月町1回、津野町3回、本山町1回、安芸市1回、土佐市1回) (4) 広報 ・人生会議啓発リーフレット(初級編…6,553部、元氣編…8,613部、退院編…5,947部)を市町村や医療機関、介護施設等へ配布 ・子世代(40～50代)をターゲットとした人生会議啓発リーフレット(親子編)の作成検討

	重点項目		取組実績
	項目名	対 策	
4	薬物及び毒物に係る検査、死亡時画像診断(Ai)その他死因究明のための科学的な調査の活用について	①警察等では科学捜査体制・機能の充実を図るとともに、解剖実施機関である大学医学部法医学教室では、迅速かつ精度の高い薬毒物分析が行えるよう検査機器等の充実に努める。(県警、法医学教室) ②死亡時画像診断(Ai)実施機関の普及を図るとともに、Aiの適切な利用を進めるため、検査技術の標準化(撮影方法、結果の報告等)やAi読影医の確保及び読影能力の向上に努める。(医師会、放射線技師会、県警、法医学教室)	【県警・検察庁】 ・科学捜査研究所による薬毒物検査等に各種鑑定を実施し、迅速な結果回答を得ている。 ・簡易薬物検査(アイベックススクリーン)、青酸化合物簡易検査(シアンチェッカー)を実施している。 ・Aiの実施件数は893体(R6.11月末時点・77.9%) 【医師会】 令和6年度高知県医師会検案業務研修会は「検案医の育成」と題して高知大学医学部法医学講座教授古宮淳一先生が令和6年11月28日(木)あんしんセンターで講演を行った。高知市医師会第5回包括ケア医部会において「高知県の孤独死の現状」と題して令和6年11月8日(木)あんしんセンターで勉強会を行った。令和7年3月1日に検案医育成に関する研修会で行う予定である。 【放射線技師会】 1. Ai検査を実施していない医療機関への啓発活動 2. Ai検査を実施する診療放射線技師のスキルアップ 3. 医療安全および医療事故等の観点からのAi実施基準の策定 【法医学教室】 ・ブラインドテストに参加することで薬毒物分析精度の維持や向上に努めている。 ・解剖事例および院内症例における死後CT画像の読影において専用のCT画像読影システムを活用している。 ・第3回高知Ai研究会に参加した。
5	大規模災害発生時等の身元確認及び死体検案作業への対応について	①身元確認に従事する歯科医師の確保及び歯科診療情報の標準化(全国共通の統一デンタルチャート導入)と同情報のデータベース構築等について検討する。(歯科医師会) ②大規模災害発生時において身元確認及び死体検案作業が適切に実施できるよう、日頃から関係機関の連携を図るとともに、平素から有事に備えるために、関連する訓練等への積極的な参加により、当該技能の向上に努める。(県警、海上保安部、医師会、歯科医師会、法医学教室、放射線技師会、県)	【県警・検察庁】 ・県主催(東部)、宿毛市主催の災害訓練に参加し、多数死体取扱訓練を実施した。 ・中四国管区内の県警による合同訓練に参加し、発生時の死体検案作業の訓練を実施した。 ・大規模災害時の死体検案の際に使用する装備資機材(浄水器2台)の追加購入。 【海上保安部】 高知県警察・高知県歯科医師会連絡協議会に参加し、大規模災害発生時に備えた意見交換を図った。 【医師会】 【歯科医師会】 歯科情報の標準化の分野においては、令和6年6月の保険改定で歯科におけるコードが厚労省コードに一本化された。ただ、情報としてどの部分をクラウド化して保存するのがまだきちんと決定されていない。日本歯科医師会にこの点を早期に解決するように依頼を掛けているところである。 【放射線技師会】 Ai-STATについて、読影補助Aiチェックシートを活用できるよう、学会などで配布した。大規模災害に対してAiに活用していきたい。大規模災害時に勤務地と異なる居住地の技師の活用を検討した。 【法医学教室】 訓練等に参加できなかったが、解剖業務や研修会等を通じて、各機関との連携の維持や強化を図っている。 【県】 (1)広域火葬情報伝達訓練(11/13、14) ※四国4県広域火葬情報伝達訓練を同日で実施 参加者:各市町村、火葬場設置者、葬祭関係事業者、県保健所、県薬務衛生課 訓練内容:広域火葬受入調整、物資(棺、ドライアイス等)の要請・応諾 (2)広域火葬対応に関する研修会(2/5) 参加者:県医師会、県歯科医師会、市町村、火葬場設置者、葬祭関係事業者、県警察本部、県保健所、県薬務衛生課 講演:「3.11 東日本大震災 遺体収容・葬送の実相」 講師:株式会社清月記 西村恒吉氏 (3)広域火葬連絡協議会(2/5) 参加者:(2)と同じ 協議事項:高知県広域火葬計画(H26)の見直し等について
6	死因究明により得られた情報の活用及び遺族等に対する説明の促進について	①Aiによって得られた異常所見情報を解剖診断時に活用できる仕組み(事例検討含む)や、解剖所見をAiの読影能力向上に役立てる方策について検討する。(県警、医師会、法医学教室、放射線技師会) また、死因究明及び身元確認業務に従事する関係機関による合同の事例検討研修会の実施について検討する。(県警、海上保安部、医師会、歯科医師会、法医学教室、放射線技師会) ② 遺族に対して死因等の説明を行う際は、丁寧に分かりやすい説明を心掛ける。また、死亡診断書(死体検案書)を交付する医師は、当該書類が人の死亡に関する厳粛な医学的・法律的証明であることを認識し、死亡者本人の死亡に至るまでの過程を可能な限り詳細に論理的に記載する。(県警、医師会)	【県警・検察庁】 ・検視専科では、医師等による専門的教養の他、実践的な検視要領を習得するたの想定訓練を実施した。 ・解剖前にAi画像データを執刀医に確認してもらい、解剖時の参考として有効活用している。 ・検視、解剖後には担当警察官から遺族に対して調査結果を可能な限り説明している。 【海上保安部】 ①死後CT撮影を行い、かつ、解剖する場合にはデータを解剖医に提供している。 ②遺族に対して、死因等の調査結果について、丁寧にわかりやすい説明を行っている。 【医師会】 【歯科医師会】 本年、6月に県警との合同講習会、訓練を実施する予定であるが、実際に即したものにしたいと今、思考中である。 【放射線技師会】 Ai検査技術向上とAi読影能力向上のため、今後もAi技術研究会を開催し、診療放射線技師の興味喚起と資質向上に努めたい。医師会開催の検案業務研修会では、死亡診断書と死体検案書の違いがよく分かった。 【法医学教室】 ・Aiによって得られた所見を解剖診断時に活用している。 ・高知県警察協力医会総会において症例検討会を実施した。